

防災教育チャレンジプラン 最終発表会

# 地域でつくる 防災フォトロゲイニング

信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会

横山俊一

# 団体立ち上げについて

- 第3回伊那市LoRaWANハッカソン(2017年度)にて、各種地域課題の講師等々を行った主要メンバーが出会う。
- 地域防災の普及を目指し、信州大学、伊那市役所、伊那市有線放送農業協同組合、上伊那広域消防本部の有志で立ち上げた団体。
- 地域を知って楽しく防災を理解してもらうことを目指す。
- 2020年に長野県伊那弥生ヶ丘高等学校の総合学習に関わることになり、新たな地域防災の仕組みづくりを目指し活動を開始。

# 2021年度メンバー及び協力者

- 信州大学 ◆横山 俊一
- 伊那市役所 ◆小松 剛
- 伊那市有線放送農業協同組合 ◆菊田 文太郎  
(いなあいネット) ◆樋代 亜希子
- 上伊那広域消防本部 ◆藤根正和

- 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校
- 長野県伊那北高等学校
- 上伊那広域連合地域振興課
- 国立高遠青少年自然の家
- 高遠郷土研究会
- 伊那市地域おこし協力隊
- 長野日報社
- 伊那市高遠町住民
- 伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会

**その他大勢の方々！**

# プランの目的と結果①

- 地域住民と高校生が協働で作成した観光防災マップをもとに、防災フォトロゲイニング大会の企画・運営を行い、参加者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの獲得を目指す。

**結果1/2** 観光防災マップの原案作成までは進んだが、諸般の事情により防災フォトロゲイニング大会の企画・運営までは達成できなかった。

**結果2/2** しかしその過程における活動をきっかけとして、新聞紙面において地域防災に関する連載を開始することができ、新たな活動周知の方法の一つを得ることができた。

# 長野日報連載 「識(しる)」からはじまる地域の防災

## 「識(しる)」からはじまる地域の防災

4

「コロナ禍で避難しなくなり  
ましたが、甲府外郭圏も  
さまざまな理由で止まり  
るのが多く、その際に必  
ず立ち寄るのが地元のロー  
カルスーパー。地域住民の  
併販との違いを見て、もう  
一度、併販の仕組みをま  
っさら、併販の仕組みを  
早くにも学びたい。

は、普段から避難訓練を  
とって、併販の仕組みを  
まっさらの仕組みをま  
っさらの仕組みをま  
っさらの仕組みをま

きて、昨年の併販部上  
が丘高校の避難訓練を  
つたおり、併販の機  
が...

### 視点を変わると様々な気づき！ 気づきが地域防災力を向上させる



いなかいなか  
**菊田 文太郎**  
まぐた、おんたろき  
1976年東京都川口市  
生まれ、信州大学卒業後、  
伊那市中野放浪(放浪者)  
伊那市(いなかいなか)に  
移住。現在は伊那市で  
フリーランスとして活動中。  
フリーランスとして活動中。  
フリーランスとして活動中。  
フリーランスとして活動中。



伊那弥生ヶ丘高校の生徒と  
のフィールドワークの様子  
12021年7月24日



## 伊那弥生ヶ丘高校の生徒と のフィールドワークの様子 12021年7月24日

# プランの目的と結果②

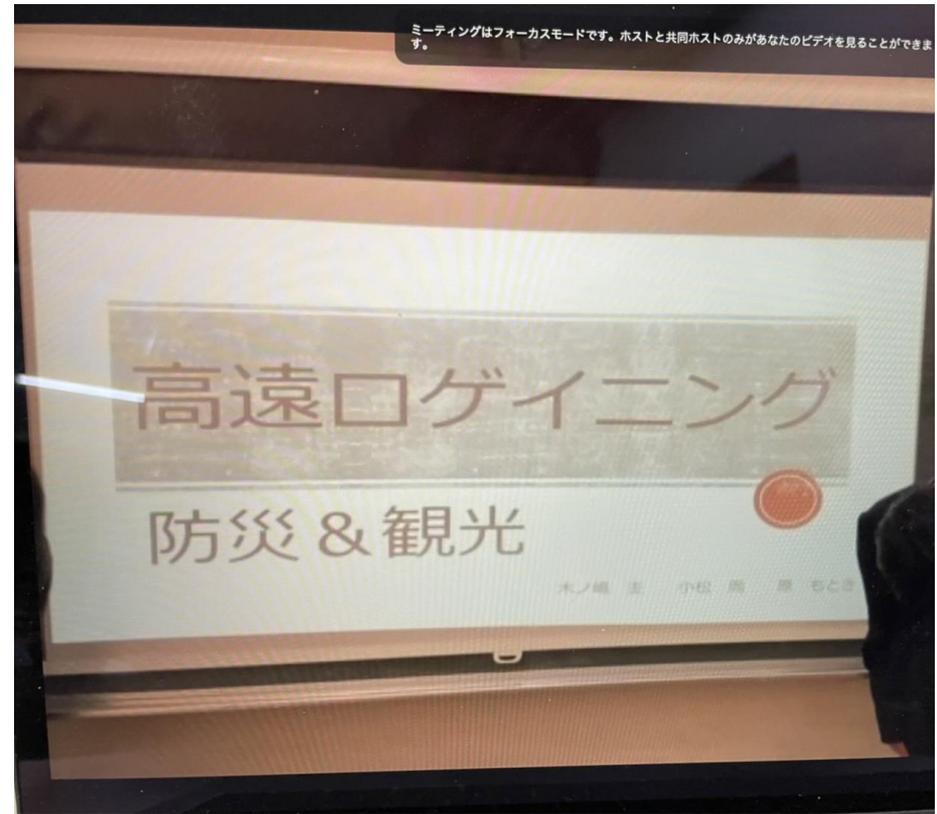
- 観光防災マップ作成に高校生が参加することにより、若年層の防災意識を醸成し、地域防災の担い手の裾野を広げていく。

**結果1/2** 観光と防災という2つの視点から地域を意識してもらうことを目指した結果、高校生が地域防災を意識するきっかけの一つにはなった。

**結果2/2** 次年度の活動についても継続して行くことが予定されている。新たに特色のある学科を持つ高等学校との連携を模索している。

# 主な取り組み

- 観光視点のフィールドワーク→学校周辺
  - 防災視点のフィールドワーク→平成18年災害地域
  - 合宿（高遠市街）
  - これまでの視点を活かしたマップ作成
  - 全国高校生体験活動顕彰制度  
「地域探究プログラム」での発表
  - 学校での最終発表
- 可能であれば
- 地域住民への発表・意見交換会の開催



ZOOMによる最終発表会

# 本プランの課題と成果

## 課題

➡ マップ作成・イベント企画開催までの動機づけ

## 課題

➡ 基図を元としたマップ作成は時間の関係で困難

## 成果1/2

➡ 様々な地域組織との結びつき

## 成果2/2

➡ 地域防災で活用可能な既存資料の発掘と活用の端緒

# 今後の活動

- 成果物の公表と活用方法の構築
- 既存資料の活用と地域防災の融合
- 県内他地域での援用
- 新たな組織との連携・協働